

令和4年度第2回北名古屋市行政改革推進委員会 会議録

○ 会議概要

1 市長あいさつ

2 議題

行財政改革実行プラン（案）について

パブリックコメント及び市民説明会について

<事務局>

【資料1 北名古屋市行財政改革実行プラン（案）の説明】

【資料2 パブリックコメント概要の説明】

【資料4 市民説明会概要の説明】

<A委員>

市民には何が変わって、何が負担になって生活がどうなっていくのか見えない。上手に行政用語の中に埋められて、実際にはどうなのかというところが見えてこないような気がする。行財政改革を実行したらこういう部分で将来が豊かになる、保障されるというものがないと伝わらない。

例えば、家計に例えるなど、説明する際にもう少し身近な物や出来事に置き換えて話すが良い。

<B委員>

このままだと未来が大変なことになるから改革が必要、改革をすることによって、より明るい未来になるし、希望の持てる北名古屋市になる、子供たちも安心して暮らすことができるというのが、前提として示せているかということが重要である。

各論的などところで言うと、市民サービスの見直しの一つの項目で、働き方改革の推進がある。優秀な人材を確保するためには庁内の労働環境は非常に重要であるが、この行財政改革の方針の中で項目として入れるのはなかなか悩ましい問題である。市民の方もいろいろ苦労されながら生活を維持する中で、説明の際の表現が非常に難しい。

<C委員>

こういう改革に対して市民の皆さんが受け入れるかどうか、理解をしていただくかどうかということだと思う。市民も痛みがあるが、市も痛みを伴うような取り組みをしているということを伝えるべきではないか。例えば、費用とか人件費とかそういうようなところをセットでやった方が市民は、市も頑張って改革に取り組んでるから我々も一緒にやろうといった感情になる。

あと、支出を抑えること以外に人口を増やすと税収が増えるといったような方法もあるということ提案することも必要。

<D委員>

職員の働き方は市民には見えないもの。たとえば、市民のためには何ができるかっていう研修を実施したり、市民のニーズを聞くために街を歩いてますとかそういうことが少し見えると安心すると思う。市の努力を分かりやすく示すと良い。DXは必要だが、予算がかかる。市民にどう還元されるのか分からない。

お金ないことだけ伝えると市民は疲弊していく。子どもの教育のためなら我慢するといったように理由をもって納得する必要がある。市民の心を一つにしなくてはならない。市長が代わってみんな期待している。市長はじめ職員のみなさんが新しい北名古屋市を作ろうとしている中で事業をやめることばかりが目立ってしまうのは損に感じる。

<会長>

組織体制、働き方、DXを通して市民サービスがどう見直されるのかを伝えていなくていかななくてはならない。そこを中心に話してもらうべき。

<B委員>

働き方改革の推進の部分だが、よりよい市民サービスを実現するためには職員のモチベーションを高める必要というところを例えばよりよい市民サービスを実現するためには適正な人材を確保して、心身の健康を維持する必要があるとかそういう表現のほうが理解が得られやすいかなと思う。

行財政改革の中で仕事と生活の両立っていうキーワードが市民の方にどう伝わるのかなというのが少し気になる。市民サービスの維持のために必要と書いたほうが良いと思う。

<E委員>

組織体制の見直しは庁舎統合ができれば解決できることである。市民サービスの一つ目に書いてあるのを疑問に感じる。駅東に新庁舎を建てるといふようなところまで早く持っていくといいのではないか。庁舎建設資金は100億ぐらい必要になってくるが、このシートからは全く資金について見えてこない。

この前、1階から3階を小学校でその上に商業施設と複合ビル、上に住居が入ったすごいビルができたというのをテレビで見た。例えばそのような議論を駅東のまちづくりに合わせて行うのはどうか。1階から3階庁舎にすれば、庁舎建設資金を用意しなくても建てることできるとか、一度検討をしたらどうかなと思った。今後、市民説明会するのにもう少し具体性が必要かなと私は思う。

ジャンボプールについては、温水プールとレジャープールの位置づけや利用目的など比較しながら検討すべきである。

ごみの減量は必要であるが、全市民に影響があるため、理論武装して臨む必要がある。

健康サポートジムの跡地の新たな保健事業については民間に委託することを検討してほしい。

近所で200坪の土地が売られ200坪に30坪×6棟の家が建った。単純に家を増やすだけではなく、規制をかけるなど高所得者を呼び込む仕組みを作った方がいいのではないかな。

< F 委員 >

合併以降やりたくてもやれなかった、先延ばしにしてきた改革をこの財政状況の中でいよいよやらなくてはいけないという理解をしてもらわなくてはならない。項目の論点整理を行い、問題提起をした上で、現状を家庭だとか個人に例えながら項目を説明した方がいい。改革をするには、メリハリつけて優先順位をつけてやっていくべき。項目の順番も見せ方として考えたほうがいい。

ごみ処理の有料化は一步間違えば不法投棄の温床となる。丁寧に進めていかなくてはならない。

庁舎統合については、現状の二つの古い施設を維持していくとそれだけコストが余分にかかるんだと示しながら丁寧に進めていく必要がある。

< 会長 >

見せ方をうまくする必要がある。庁舎についてはまずは検討に入ったという段階であり、現時点でなかなか具体的な表現は難しいと感じる。

< G 委員 >

市町村でも今の電気代が足りず、補正予算をしている。ランニングコストをいかに削減するかでとても苦労されている。電気代のコスト削減をするツールもあるので参考にしてほしい。

< 会長 >

明治の大合併っていうのが小学校の維持のため、昭和の大合併は中学校の維持のためだった。平成の大合併は人口減少、高齢化への対応のためである。そのためにも、二つの町が一緒になったことによるメリットを最大限引き出して、デメリットをできるだけ無くしていかななくてはならなかった。北名古屋市の場合には必ずしも十分できていないという状況であったが、名古屋市近郊という恵まれた立地の中で人口は増加してきた。

これからの人口減少を止めるためにも都市作りの基盤というものを今一度固めていく必要があるという行財政改革の必要性をしっかりと伝えなくてはいけない。

< E 委員 >

当日の市民の意見を聞くやり方でもよいのではないか。

< 市長 >

説明会は今回だけで終わるのではなく、来年度以降自治会単位で開催していくことを考えている。今回はまず市民に現状を知ってもらうために大きい会場2か所で進めている。来年度以降は侃侃諤諤でやっていきたい。

今回の説明会では市民と同じ目線で説明していきたい。来年度以降は各自治会単位で開催する。それぞれの地域によって問題点は様々変わってくると思うのでそこで意見を拾いながら、説明していきたい。

< F 委員 >

若い世代が参加しにくい時間帯である。子どもを預けることができるとか家族でどうぞとか北名古屋市の将来のために皆さんで来てくださーいといった若い世代が来やすい仕組みが必要。

< H 委員 >

元々住んでいる市民は気付かないが引っ越してきた市民からは良い街だねと言われることが多い。市民に響くような説明会になるといい。

3 その他

第2次実施計画重点プロジェクトについて

【参考資料 第2次実施計画重点プロジェクトについての説明】

< E 委員 >

子育て支援と障害者の支援は連動している部分がある。健常児と障害児と一緒に成長できるような取組を行ってほしい。

< 会長 >

障害児の教育も一時は分離させていたが、今はインクルーシブ教育といって一緒に学ばせることになっている。子ども子育て部分とリンクしている。

< 市長 >

決して北名古屋市の税収が悪いわけではない。計画性をもって支出しなかったことが問題。それをまず市民に知ってもら。身の丈にあった事業という意味では子ども医療費の無償化は簡単にやるべきでなかったとも言えるが、他市町村もやり始めて、今になって事業をやめるわけにもいかない。決して税収は悪くないが、計画性を持って事業を行わなくてはいけないということを伝えていきたい。

【閉会】